

日本通訳翻訳学会第 11 回大会 発表用メモ

発表者：染谷泰正（関西大学）

場 所：大東文化大学

日 時：2010 年 9 月 12 日

題 目：「プロ通訳者による通訳ノートおよびノートテイキングの実験的研究」

はじめに

発表者は 2005 年の論文（「通訳ノートテイキングの理論のための試論—認知言語学的考察」『通訳研究 第 5 号 pp.1-29』）において、通訳ノートを体系的に理解・分析するための理論的枠組みについて議論した（※時間の都合上、内容は省略）。

その後、同論文で提示した「動的命題ネットワーク仮説」(DPN = Dynamic Propositional Network Hypothesis) の妥当性を検証するとともに、通訳時の情報処理・認知処理に関するより詳細な実証的データを得ることを目的に、2007 年 8 月に現役通訳者 4 名と大学院生 5 名を被験者とする一連の実験（「通訳の認知処理に関する実験的研究」）を行った。実験は大きく分けて 2 種類からなり、実験 1 ではアイマークトラッカーを使った英日サイトトランスレーション課題を、実験 2 では英日ノートテイキング逐次通訳課題をそれぞれ実施した。実験 2 では、被験者のノートテイキングのプロセスを音声を同期させた上で逐一ビデオ撮影するとともに、事後に、それぞれの被験者に対してインタビューを行い、実験時の内的認知過程に関するプロトコルデータを収集した。

本発表では実験 2 で得られたデータのうちから、プロ通訳者による通訳ノートおよびノートテイキング（プロセス）に焦点を当て、前掲の論文で提示した理論的仮説およびこれに伴う下位仮説群＝次ページ参照＝を支持するいくつかの実証的エビデンスを紹介するとともに、経験を積んだプロ通訳者のノートおよびノートテイキングが示唆する教育上の含意について考察する。

発表アウトライン（ハンドアウト参照）

1. 実験の内容と手順 (p.5).
2. ~~課題テキストの計量分析~~→~~テキストの特徴分析および問題の予測~~
3. [実験仮説](#)
4. 実験ビデオ ([Sample 1](#) | [Sample 2](#) | [Sample 3](#))
5. データ分析 (→[プロ通訳者のノート分析](#): pp. 11-16)
6. 考察とまとめ

※本研究の一部は日本通訳翻訳学会関西支部の第 24 回例会で中間報告としてすでに発表しているが、今回は例会における参加者からのコメントおよびその後のデータ分析の結果を反映しながら、時間の許す範囲でより包括的なプレゼンテーションとする予定である。

実験仮説

この実験によってわれわれが検証し、かつ主張しようとする仮説は概略、以下のとおりである。

Main
Claims

1. 通訳ノート (NT) は基本的に ST を構成する「命題」(proposition) をユニットとする (→ ST の言語情報は「命題リスト」という形で表象され、これが近似的に NT に写像される)。
2. NT を伴う逐次通訳は概略、**ST**→[**Propositional Representation**]→[**Reduction**]→NT→[**Expansion**]→TT というプロセスを経る (→ 図「[ノートテイキングの二重プロセスモデル](#)」p.3 参照)。

Rdc.
Hypo

3. NT は ST の命題構造を継承するが、**縮小化 (reduction)** が起こる。(→Reduction Hypothesis)
4. NT での縮小化は主として省略化 (ellipsis)と構造的変化 (structural change) からなる。省略される要素は、回復が容易な要素、またはフォーカスのない要素である。
5. フォーカス情報は通常、維持される (フォーカス情報は通例、音声的にマークされる)。
6. 構造的変化は限定的である (主として TT に慣用的な対応表現がある場合の経済化方略として起こり、副次的に coping strategy として起こる)。

Exp.
Hypo

7. TT は縮小された NT を**拡張 (expand)** したものである。(→Expansion Hypothesis)
8. TT での拡張は、NT に縮小化されて継承された ST の <命題構造> を復元する方向で起こる (→ TT の目的は ST の「表意」(explicature) の復元である)。
9. Explicature とは「ST の言語的内容 (what was actually said)」と「"Good-enough" TT の構成に必要な最小限の範囲の富化 (enrichment), 詳細化 (specification), および文脈限定的推論 (contextually-bound inference)」からなる。
10. (セレスコビッチらが主張する) "Deverbalization" をともなう深い処理 (concept-mediated deep processing) は通訳におけるノームではなく、それが必要な場合 (i.e. 情報処理が追いつかない場合や十分な理解ができなかった場合 [あるいは多義性や曖昧性解消のために再解釈が必要となった場合] にのみ起こる限定的現象である。ただし、この場合でも処理の深さは "good-enough representation" が可能なレベルを超えない。

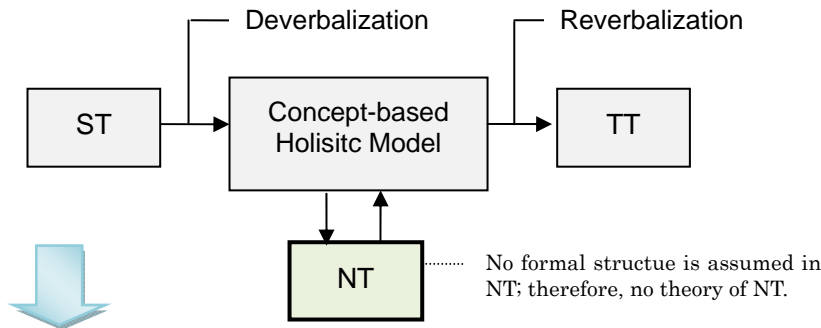
11. 通訳ノートの書記法は「最大効率の原則」と「最大情報価値の原則」の2つの原則によって支配される。
12. NT 上に表現された文字列は (英語や日本語といった) 自然言語の「単語」そのものではなく、それらのコトバが示唆する概念の「ラベル」である (→このラベルは情報検索のための「インデクス」
として機能する)。

教育上の示唆

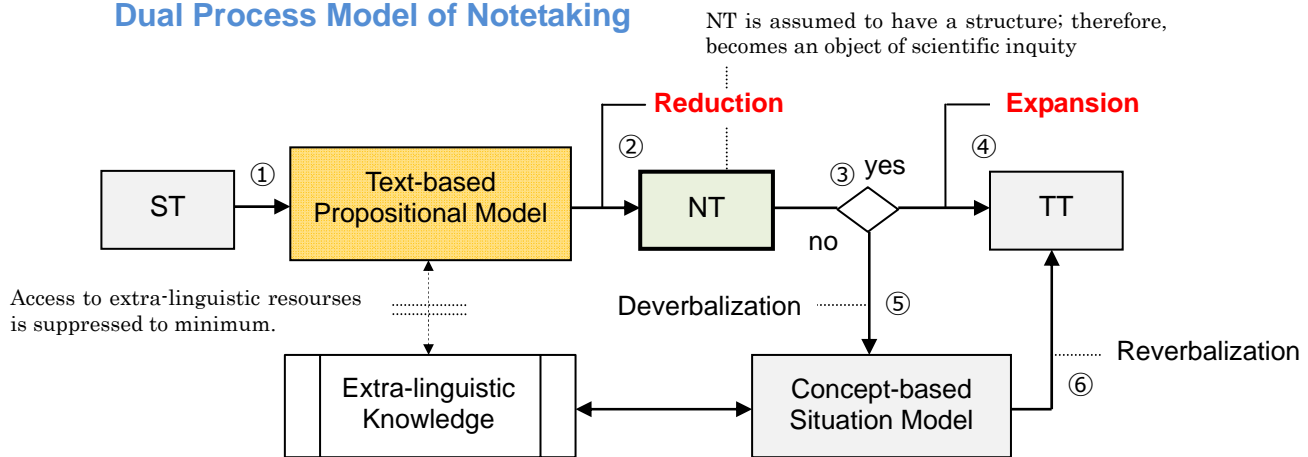
1. 前記 2 から、ノートテイキングの習得は、①ST 情報の命題化スキル (表象形成に使用する形式スキーマ=テンプレートの習熟化訓練)、② (命題化された情報を NT 上に効率的に転記するための) 縮小化スキル、③ および NT 上の断片的な情報から適格かつ内容的に「ほぼ十分な ("good-enough")」フルメッセージをオンラインで作成するためのスキルのそれぞれを習得するプロセスであるということができる。(→訓練用テキストの例 | [ThomasRead](#) | [米国産業の危機](#))
2. さらに、前記 11 から、ノートテイキングの習得は「最大効率の原則」と「最大情報価値の原則」の2つの原則に叶った書記技術の習得を含むプロセスであるということができる。

ノートテイキングの二重プロセスモデル

Seleskovitch Model (aka, Strong Version of Deverbalization Hypothesis)



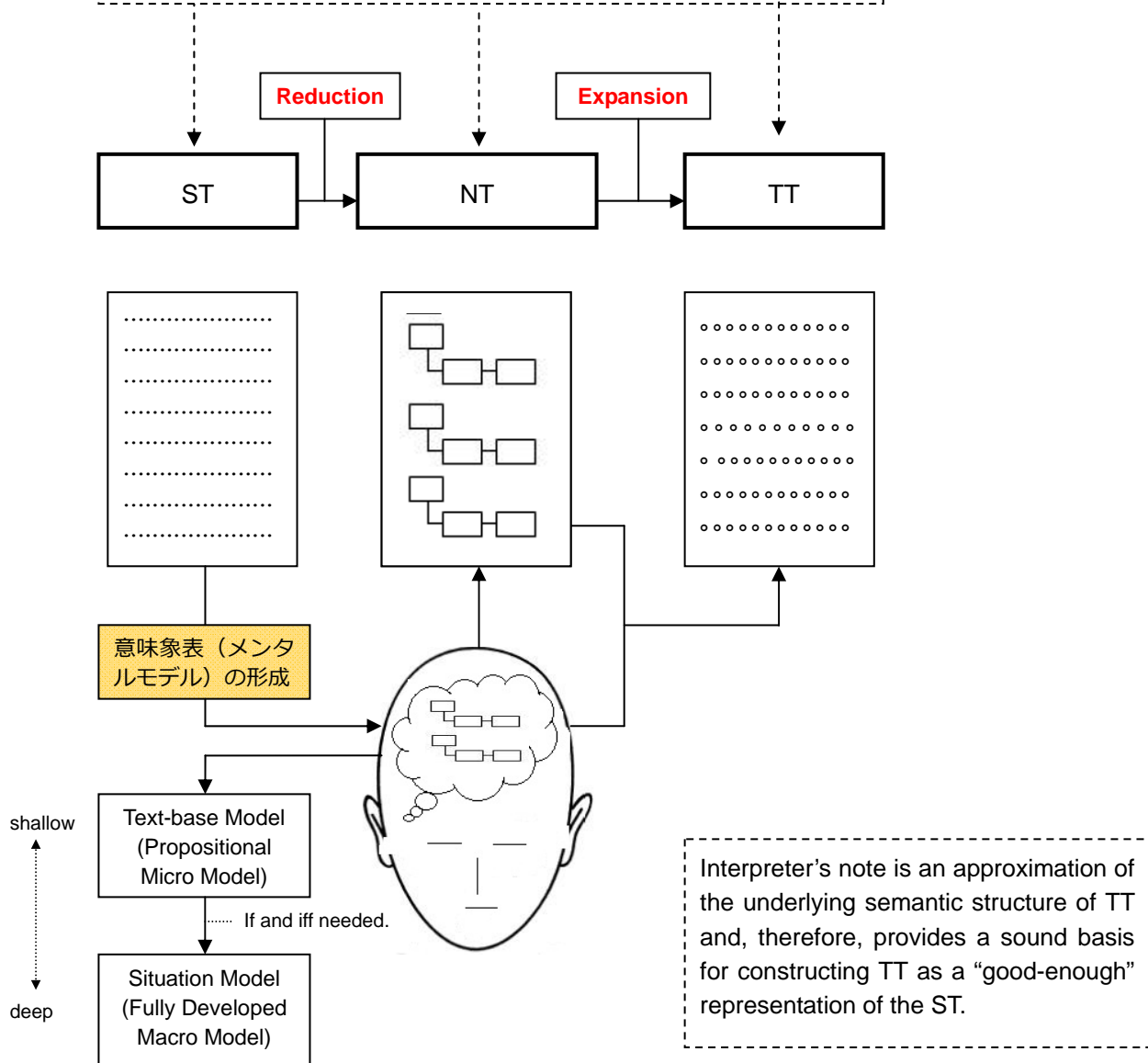
Dual Process Model of Notetaking



- ① The interpreter recovers linguistically-encoded meaning of ST. The ST representation is assumed to be made at the propositional level and is stored as such.
- ② The propositional representation is then rendered into NT via a reduction process. The reduction process typically involves either elliptical or restructuring processes, or both.
- ③ If NT is “good-enough” to recover the propositional model of the current ST segment, or its approximation, go to ④.
- ④ Render TT via the process of expansion (with the least necessary degree of enrichment, specification and/or contextually-bound inference) and DONE.
- ⑤ If and iff NT is not “good-enough,” then you may “deverbalize” (i.e. move away from) the NT rendition to (re)construct a more global conceptual model and, working on that level, try to find a meaning equivalent or approximation of the target ST segment.
- ⑥ Reverbitalize it (i.e. give an appropriate linguistic form to the target notion) and render TT via the process of expansion (with the least necessary degree of enrichment, specification and/or contextually-bound inference) and DONE.

ST-NT-TT as Different Representations of the Same TEXT at the Level of Deep Semantic Structure (Logical Form)

Surface forms may differ, but they all share the same underlying proposition (or propositional structure) and, therefore, the same concept (or semantic structure) that the text in question tries to convey, provided that everything went well in the process.



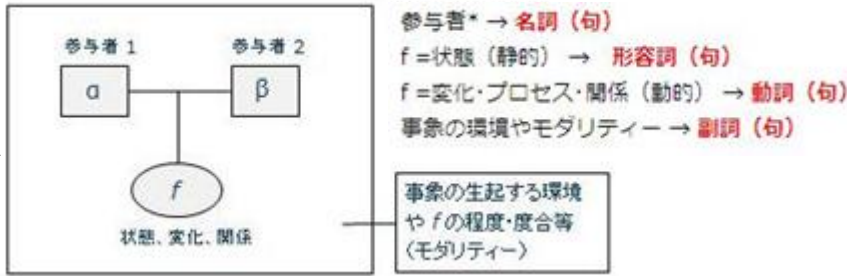
→ [NT 教育上の示唆](#)



現実世界の事象 (event)



事象認識の概念スキーマ



事象を言語化するための形式スキーマ (命題スキーマ)

[PERHAPS (LOVE (JOHN, MARY))]



対象事象およびこれを構成する項と述語に関して発話者が持っている知識や想定・前提 (その多くは明示的に言語化されないままコミュニケーションが行われる)。



対象言語の文法規則に則って言語化 (verbalize) された事象認識

Perhaps John loves Mary.

発話：言語で明示的に伝えられるのは、常に、当該の発話が伝達を意図している「事象」の一部分のみであり、完全なコミュニケーションというものはありえない。



意味表象 (テキストベース) の形成

[PERHAPS (LOVE (JOHN, MARY))]



浅い理解=言語的にエンコードされた意味 (と、これが慣習的に含意し、したがって推論コストがかからない意味=例えば John が [+human, +male] であることや Mary が [+human, +female] であること) だけを回復する。



意味解釈



[解釈 1] In the opinion of the speaker, it is likely that this man named **John**, the agent, is in the state of being emotionally attracted to this woman named **Mary**, the recipient. And, under the current communicative context, there is nothing unusual about it, requiring no further processing beyond the surface level of interpretation.

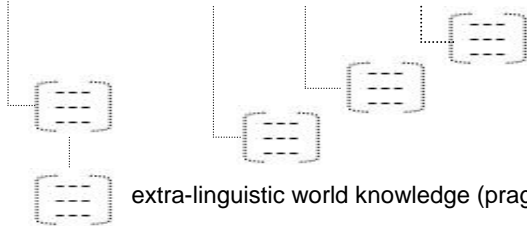
発話構成

発話理解

Perhaps John loves Mary.

↓ 意味表象の形成 (再形成)

【PERHAPS (LOVE (JOHN, MARY))】



↓ 意味解釈 (再解釈→意味の拡張)



[解釈 2] The linguistic meaning of this statement is that in the opinion of the speaker it is likely that this man named **John**, the agent, is in the state of being emotionally attracted to this woman named **Mary**, the recipient. But since **Mary** is known to have been married to someone else, there is something “unusual” about this statement, requiring a further processing to properly decode possible implications of this statement. It may be that the speaker is accusing of **John** for his seemingly unethical behavior.

深い理解=「浅い理解」では文脈上（あるいは伝達されたイベントについて聞き手が持っている前提知識に照らして）合理的な解釈ができない場合、言語的にエンコードされた意味に加え、述語と項（および当該イベント全体）に関して発話者が持っている知識を動員して矛盾のない（合理的な説明が可能な）理解を形成する。

※「テキストベース」のモデルから、聞き手の解釈を交えた（より包括的かつ主観的=個別的な）「状況モデル」の構築。